

平成 26 年度 教職員のための霞ヶ浦湖上体験スクール結果報告

開催日時：平成 26 年 8 月 19 日（火）8 時 30 分から 16 時 20 分

開催場所：午前 ラクスマリーナ 霞ヶ浦（土浦港から美浦村大山）
柳瀬パール（稲敷市）

午後 牛久自然観察の森（牛久市） 牛久市中根橋付近

参加者：14 名 センター職員 4 名

実施内容

今年度の教職員のための霞ヶ浦湖上体験スクールは、土浦港から美浦村大山まで船での環境学習を行い、その後小野川を遡るというものでした。湖上での環境学習は、透明度やプランクトンの観察、そして今後の調査活動に必要な透視度やパックテストでCODの測定を行いました。河川の調査では、「水辺のすこやかさ指標（みずしるべ）」を活用します。川の自然なすがた、生き物、水のきれいさ、快適さ、普段の生活での利用などの視点から川を取り巻く環境を調べる際に活用できるものです。センター長より「霞ヶ浦における水質の動向」について、これまでの水質の動向やアオコの発生状況、透明度の変動を中心とした講義がありました。

湖上での環境学習は、透明度板を使っての透明度の測定やプランクトンネットで採集したプランクトンの観察をしました。ディスプレイに大写しになったプランクトンに参加者から歓声があがっていました。



湖上での学習の様子

小野川河口での淡水真珠の養殖についての説明が、柳瀬パールの柳瀬様よりありました。貝の中に核を入れて真珠を養殖しているそうです。核を入れたばかりの貝は、すぐに川の中に入れるのではなく池の中で養生させてから川の中に入れるそうです。貝の稚貝は、ゴリと呼ばれるハゼの仲間を使って殖やしているとのことでした。



2年目の稚貝

小野川河口付近で水辺のすこやかさ指標による調査を行いました。小野川河口付近は、川幅が広く水量も多いです。ヨシやマコモもたくさん生息していて植物も多いです。

牛久自然観察の森で、小野川の水運の説明及び小野川で採集できる貝化石の説明をして頂きました。小野川の水運の説明は、坂様から江戸時代に小野川から霞ヶ浦、そして江戸川を通る舟運についてのお話し頂きました。当時は太平洋の銚子沖を通るのは危険であり、内水路として河川と霞ヶ浦を通る舟運が発達していたそうです。



プレゼンの1コマ

霞ヶ浦周辺での貝化石の説明を遠藤様から頂きました。
霞ヶ浦は昔海であったため、その証拠として貝化石が見られる場所があるそうです。今回調査するのは牛久市中根橋
付近の小野川です。12～13 万年前の貝化石とのことでした。



以前採集した貝化石

牛久市中根橋付近で貝化石の採集及び水辺のすこやかさ
指標による調査を行いました。水量はほどほどあり、川に
は中流らしく中州があります。川の周辺にはヨシやマコモ、
ヤナギと樹木がたくさんありました。



牛久市中根橋付近

ラクスマリーナで教職員研修の振り返りを行いました。

小野川河口での淡水真珠の養殖、江戸時代に発達した小野川水運、霞ヶ浦が海であった
ことが分かる 12～13 万年前の貝化石の採集と現在、過去を振り返る研修となりました。
このような過去があって現在の霞ヶ浦、小野川があることを認識して、将来につながる
ことができるような学習を学校で展開して頂ければと考えています。水辺のすこやかさ調べ
も小野川で有効に活用できることが分かりました。参加者からは有意義な研修でしたとの
感想を頂きました。